



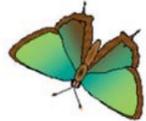
# ようこそ 三ツ又沼ビオトープへ



三ツ又沼ビオトープには、沼や草はらがあり、さまざまな生きものが訪れます。なつかしい出会いや新しい発見を見つけに来てみませんか？

## 子どもがはくむビオトープ

～荒川ハンノキプロジェクト～



埼玉県の蝶ミドリシジミの幼虫のエサとなるハンノキは荒川流域で減りつつあります。

このプロジェクトは、地元の小中学生をはじめとする市民がハンノキを種から育てて植え戻すプロジェクトです。学習活動にも役立てられています。



## 市民がはくむビオトープ (保安全管理活動)

初夏の夕暮れ時、たくさんの方々が美しいチョウ、ミドリシジミが飛び交う姿を観察しに訪れます。



地域の自然を守る活動にもたくさんの方々が参加。セイタカアワダチソウなど外国の植物も、小さいうちに抜いてます。



荒川の自然の草原を守るために、外国から持ち込まれた植物を市民の方で抜いて、荒川の自然本来の草原をたてこつて活動しています。



環境団体などが主に週末にボランティアで行っているビオトープ保安全管理活動には、だれでも楽しく参加できます。

日には、荒川上流河川事務所のホームページやハンノキ広場の看板などを通じてお知らせします。サポーター事務局にもお問い合わせください。

# 生きものがもっとあふれるこんなビオトープをめざしています！

## ヤナギの林

◇ 湿地に生えるタチヤナギ、アカメヤナギ等の樹液や葉を求めて昆虫が集まり、野鳥も集まってねぐらとします。コムラサキの幼虫はヤナギの葉を食べて成長します。春に種のわた毛がふわふわと舞う様子は幻想的。



コムラサキ

ノコギリクワガタ

ハンゲショウ

◇ コムラサキなどがずっとすみ続けられるヤナギの林と、まわりの湿地が一体として残るように、調査をしながら見守ります。

## オギの草はら

◇ 秋に銀色の穂がかがやくオギの草はらは、時々水につかる場所にあります。小さなホンドカヤネズミは、オギの葉を使い丸い巣をつくります。昆虫が多く、幼虫は野鳥たちの貴重なえさになります。



ギンイチモンジセセリ

セッカ

ホンドカヤネズミ

◇ 外国の植物は、日本にもともと生えていた植物が育つ場所をうばい、その植物が好きな動物もいなくなるので、取り除きます。

## ヨシの草はら

◇ 荒川が氾らんするしめった環境や水ぎわなどの代表で、希少な草花も共に育ちます。水をきれいにする働きもあります。ヨシの根元でくらす小魚やヤゴ、巣をつくる野鳥、えさをとるイタチなど、生きもの達でにぎわっています。



ヨシゴイ

ハナムグラ

◇ ヨシの他、希少種を含めたいろいろな植物が芽を出すように、一部のヨシを冬に刈り取り、春の日当たりをよくします。

## みずべ(池や沼・昔の川の路)

◇ 荒川の流れから離れた池や沼に水草が葉を広げ、ミクリ、タコアシなどの希少植物が点々と姿を見せます。魚、トンボ、水鳥のいこいの場です。大雨が降り、上流から水が流れこむと、昔の川のようになります。



カワセミ

メダカ

ヒシ

◇ 最近では外国の魚・ザリガニ・カメ・カエルなどが、みずべにすむトンボのヤゴをはじめ、小さな昆虫や魚を食べることが問題になっています。



オオタカ

大きさはカラスくらい。時々三ツ又沼ビオトープにえさ(主に野鳥)をとりに訪れるよ。上空でカラスがさわいでいたら、空を見上げてみよう！



クヌギ、ハンノキ、ムクノキなどが連なり、木陰がさわやかな散策路です。



クヌギやムクノキの苗を植えて林を育てています。



ホンドカヤネズミ

尾をのぞいた身体の大きさは6cm。日本で一番小さな野ねずみ。春と秋にオギ原のなかに丸い巣をつくり、子育てをするよ。



かいろう 緑の回廊

駐車場・トイレ

(川島方面) 入間川・県道339号

(上尾方面) 荒川・西野橋

ハンノキ広場 (情報スポット)

三ツ又沼

ヨシの草はら

ヤナギの林

オギの草はら



湿地の場所をながめると、昔の川の流れを感じます。

観察路



植物をふみつけないように観察路(木道)を通ります。観察路の下はイタチなどの生きもの達の通り道にもなります。

ミクリ

みずべにはえる植物。高さは0.5~1.5mほど。6~8月に実をつけるよ。最近、各地でみずべが失われ、数少なくなった植物のひとつ。